

令和7年度第3回島根県幼児教育推進協議会 議事概要

日時：令和8年3月9日（金）10：00～12：00

会場：サンラポーむらくも 八雲の間

出席者

（委員）：小山 優子 座長（公立大学法人島根県立大学人間文化学部 教授）

武田 優美子 委員（島根県国公立幼稚園・こども園長会 会長）

西谷 正文 委員（島根県私立幼稚園連合会 理事長）

川上 雅文 委員（荒茅保育園 園長）

相山 慈 委員（認定こども園あさりこども園 統括園長）

塩満 恭子 委員（認定こども園神田保育園 園長）

黒崎 美明 委員（島根県幼児教育研究会 会長）

佐藤 淳 副座長（島根県小学校長会 会長）

持田 万規子 委員（松江市こども子育て部こども政策課 保育指導官）

重田 幸 委員（大田市健康福祉部こども政策課 副主幹）

八束 政義 委員（島根県教育庁特別支援教育課 課長）

○事務局：伊藤 広志（島根県教育庁学校教育課幼児教育推進室 室長）

野島 博行（島根県教育庁学校教育課幼児教育推進室 企画幹）

野津 明久（島根県教育庁学校教育課幼児教育推進室 指導主事）

関野 淳也（島根県教育庁学校教育課幼児教育推進室 指導主事）

岩成 佳子（島根県教育庁学校教育課幼児教育推進室 幼小連携・接続アドバイザー）

永島 千津子（島根県教育庁学校教育課幼児教育推進室 幼児教育コーディネーター）

小笹 栞太（島根県教育庁学校教育課幼児教育推進室 主事）

梶谷 美鈴（島根県健康福祉部子ども・子育て支援課 課長補佐）

高橋 ひとみ（島根県健康福祉部子ども・子育て支援課 主査）

渡邊 紀子（島根県健康福祉部子ども・子育て支援課 主任）

1 開会

- ・挨拶（座長）

2 議題

- （1）幼小接続プラットフォームフォーラム振り返り
 - ・アンケート結果より 資料1
- （2）令和7年度 幼児教育総合推進事業の成果と課題
 - ・幼小連携・接続に関する実態調査より 資料2
 - ・質疑応答
- （3）令和8年度 幼児教育センターの体制について
 - ・令和8年度 幼児教育センターの体制案と取組の重点 資料3
 - ・幼小連携・接続アドバイザー業務の振り返りと次年度の見通し 資料4
 - ・幼児教育コーディネーター業務の振り返りと次年度の見通し 資料5
 - ・島根県幼児教育センター主催の次年度の見通し 資料6
- （4）幼児教育推進協議会委員より
 - ・幼児教育センター令和8年度の取組への意見
- （5）その他
 - ・令和8年度 行事予定 資料7

3 議事内容

議題（1） 幼小接続プラットフォームフォーラム振り返り

（事務局説明）

アンケート結果より 資料1

- ・参加者のアンケートに寄せられた次のような意見を参考に今後につなげていきたい。

【成果】

第1部「パネルディスカッション」について

- ・県の方向性や取組を理解し、多角的な視点や具体的な提案に共感し、多くの気づきを得られた。特に、「対話と実感」や「幼小連携を優先順位に入れ込まない」という視点が印象的だった。
- ・それぞれの立場における「生の声」を聞くことで相互理解の重要性、特に管理職の役割の大きさを再認識した。横の連携の重要性にも気づき今後の実践への意欲が高まった。

第2部「グループ協議」について

- ・行政が現場の先生と直接話し、各自治体が抱える連携・体制構築の難しさを共有できた。規模の近い自治体間の議論は特に有意義で、共通の課題に共感し、安心感が生まれた。
- ・他市町村の具体的な取り組みから、自組織で活かせるアイデアや刺激を得られた。「今あるものを活用する」「多様な視点からのコラボ」といった考えが共有された。
- ・幼小関係部署や担当者間の「仲の良さ」が、円滑な連携に不可欠であると再認識された。
- ・各市町村の取組からは、ターゲットを「全職員」とした安来市の例、実際の具体的なアクションに軽重をつけるという西ノ島町の例、未来に向けて主体的に安心して学ぶ姿をねらう大田市や架け橋期にこそ力をつけたいとする邑南町の例などが取り上げられた。

【課題・改善点】

- ・パネルディスカッションでは、架け橋カリキュラムの具体的な取り組みまで話が深まらなかった点、パネリストの話す時間配分の改善、会場からの質疑応答の時間確保などの要望がみられた。
- ・グループ協議ではオンライン形式ではなく、直接対面でのより長い意見交換や、より多くの市町村との情報交換の機会を求める声があった。
- ・運営面では、現場の管理職や多くの担当者にも参加を促すこと、周知方法を検討してほしいこと、教育事務所ごとの開催や、冬場の移動の不便さを考慮した開催時期の配慮などについて要望が寄せられた。
- ・来年度は「時期は今年度と同様、会場は県民会館が休暇になるため変更、内容は検討中である。再来年度はシンポジウムとして、現場を含めた参加対象を広げる方向で考えている。

議題（2） 令和7年度幼児教育総合推進事業の成果と課題

～幼小連携・接続に関する実態調査より～ 資料2

（事務局説明）

- ・5歳児の保育者及び1年生の学級担任、並びに両者の保護者を対象にした調査から見えてきたこととして次のようなことが指摘される。
 - 「社会生活と関わり」「思考力の芽生え」などの観点で育成のための工夫改善が必要。
 - 「社会に開かれた教育課程」「カリキュラムマネジメント」等の視点で研修内容を考えていく必要がある。
 - 幼児教育施設の施設長、小学校長への連携・接続についての回答からは、私立の幼児教育施設を巻き込みきれてない実態がうかがえる。幼と小の認識の違いやズレを埋め、カリキュラム開発が進まない理由について、分析したうえで対応していく必要がある。

- ・全体として、令和8年度に向けて次のような視点がポイントと言える。
 - 幼児教育の基準書やしまねの架け橋期の教育ガイドの趣旨が心に響き、保育者が保育改善に取り組む意欲を高めるために、どのような研修を企画するか？
 - 幼児教育施設の質の向上のために、園の実態や保育の実態から多面的にアセスメントし、指導・助言できるよう、市町村幼児教育アドバイザーとどのように連携するか？
 - 幼小の先生方が「架け橋期のカリキュラム」実施意欲を高めるために、県ではどのような市町村支援を行うとよいか？
 - 幼児教育アドバイザー不在の町村の幼児教育施設をどのように支援するか？

<質疑応答>

「幼小接続プラットフォームフォーラム」について

(委員)

当日他の用があり不参加。幼小連携を優先順位に入れ込まないとはどういうことか。

(事務局)

学校が業務が多い中、優先順位の上や下ではなく、あたりまえにやることとして取り組んでいく必要がある。

(委員)

教育長がいっぱいいて、びっくりした。教育長から何か意見あったか。

(事務局)

その後市町村教育長会あり。野津県教育長から、「幼児教育センターを活用して、どんどんやってほしい。幼児教育施設や幼小連携接続のいろいろな好事例もっている。よい取組があれば市町村の方からアプローチして情報とりについてほしい」と話された。センターにも教育長から、そういう話があった。

(委員)

フォーラム行政の方たくさんでている感じがした。市町村それぞれで前向きに取り組むことがわかった。今後は、令和8年度はまだ現場を含めないのか。

(事務局)

今年度は行政関係の方と同じベクトルでやる。これをステップアップして、最終的には現場の方も。一気に難しく、来年度は管理職のイニシアチブが子の取組みすすめるのに重要、まずは現場のところは管理職、9年度はさらに、段階的にひろげていくイメージである。

(委員)

現場の話も聞きたい。行政はいい事例しか話さないから、現場の思いを話させていただいた。

(委員)

こういう場、いままでなかった。話を聞いて終わるだけでなく、今後どうすればよいか市町村が聞いてよかった。聞いただけでなく前に進まないと。市町村間で話ができよかった。教育長も交えて話ができるとよかった。

「幼小連携・接続に関する実態調査」について

(委員)

グラフ ステップ2 保育所と学校 結果がわかるのは何故だろうか。

(事務局)

対話不足がある。互いの状況が把握できていない。ここの突破が必要。

(委員)

数値だけ見ると、保育はまあまあできているが、学校はあまりできていないと見える。

(事務局)

母数が違う。幼児教育施設は私立が巻き込めていない。

(委員)

幼児教育の質を高め、研修や「架け橋期のカリキュラム」をどうすすめていくか。皆さんの意見をいただけないだろうか

(委員)

垣根が高い。特別支援、自分事に入りやすい入り口、分析して課題感どういれながら取り組むか、大田市の話もよかった。

(事務局)

昨年大田市とコラボの形はよかった。接続や連携の突破口はいっぱいあるが、その中で特別支援という見方で突破したことは、参考になる取組だった。

(事務局)

センター、特別支援課、一緒に伺わせていただいた。県大も。最終的にはこどもの育ち学びどう確立するか。他課との連携しながら進めること大事。

(委員)

幼児教育施設側と小学校側の連携できているかの認識の違い。私もかかわってくるが、ステップ2と3、どこまでできているかの定義・認識の捉え方、ずれがあるのではないかと考えている。幼児教育施設も小学校もしているか、していないかといえば、している気がする。フォーラムでも話が深まらなかったというご批判もあったと思う。今回はスタート、行政も含めて全県下で情報共有しましょうということでスタートとしてとてもよかった。その中でカリキュラムを共有することの捉え方が幼と小違うのでは。そこを話し合っていないと難しいのではないか。交流1回あるのがステップ2なのか3なのか、つめていけないといけない、議論していないといけないところだと思っている。

質の向上ということでは、アンケートで、架け橋カリキュラム作られた中で、ガイドきちんと理解したいということころで、幼側はそこをしっかりと知りたいということだと思う。施設も20代から50代の職員がいて、若返りも進む中、どういう研修か、センター職員派遣研修中身の違い、初任者向け、ベテラン向け、カリキュラム、幼小接続、特別支援、いろいろあると思う。どういう研修なのか、研修内容を分析していく必要があると思う。

小学校に向け、どうすすめていくか、垣根が高い、そこは難しいが、小学校も忙しいので優先順位あげられないが、小さい自治体から進めるという事例をつくり、雰囲気づくり、県全体で進んでいるという積み重ねが大事。幼児期のこどもはこんな感じ、小学校はこんな感じ、10年前のこどもをイメージしていると全然違う、質の中身そういうところも足並みそろって来ると思うので、そこは時間をかける。幼小連携いろいろな方法論含めて、意見やアドバイスいただきたい。幼児教育からぜひ。

(委員)

報告を読みながら、もやもやしている箇所、関係づくりが困難。幼児教育施設の気持ちに圧倒的に多い。幼小接続に関係づくりは重要な部分、幼児教育施設側は困難と考えている。先日小学校から連絡あり、いままで小学校から園に訪問していたが、働き方改革でできなくなった。ついては園から小学校にきてくださいと。事情はわかる。ただ園側にも事情がある。双方話し合いはなく、連絡に対して園担当者は不信感をもった。現場でそういうのがいくつもある。園が思っているように話が進まない。幼小接続と違うところで小学校と幼児教育の関係性って、うまくいっているのだろうか。

(委員)

実際のところ、小学校は忙しいが、そこをどういう仕組みでいくか。行政がどんな仕組みを作るかによって、解決はできる。松江市の例を、オブザーバーに話してもらいたい。

(オブザーバー 松江市担当者説明)

松江市内でも、手ごたえを感じているところもあるが、1日入学がなくなったというところもある。思うようにすすまないところも現実ある。松江市は、管理職研修と担当者研修を、全施設小学校を集めて、必ず2回継続して行っている。

その中で必ず小学校区別に集まってグループ討議をする時間を設けている、大切にしている。それがきっかけとなり、管理職の考え、担当者の思いがあり、その研修と別に校区で集まったところある。もう1つ別に、特別支援的な考えで、気になるこどもがいるときに、連携シートがあり、要望あれば園内保育を見せていただく。園にいきその子を観察する、これは定着している。行政は、もっと全体を見る視点もいれてほしいと思っている。

(委員)

江津市では仕組みを作っていたので、比較的年度の早い段階で、校長と施設が話ができる機会がある。夏休みに、施設に行く機会もある。

(委員)

松江市では各学校に多くの園、1校1園いろいろあるが、小さい園は根づいている。好事例を伝える場にもなっている。教育委員会とこども政策、校長会園長会からしっかり意見を聞きながら進めていくことが大事。

(委員)

幼側からすると、幼小連携一緒にしようといっても忙しい、働き方改革で教員守らないといけない、小学校側の配慮もよくわかる。いきちがい起こりがち。組織とカリキュラムで、勝手に変更できないシステムづくりや、連携の仕組みづくり、強固にすることを時間かけてやっていく必要である。あり方、検討していくこと重要かと思う。

(委員)

県幼児教育研究会の立場からすれば、理事会で各支部の委員集まる。今年度最初の会で、ガイド作成されたので、各支部でガイドの理解、研修の活用を伝えた。議事後の情報交換で、活用状況、研修の状況を話題にしてきた。1年終わると、最初どうとりかかっていかかわからないところあったが、最後の会では各支部の取組みや向かわないと言う意識、てごたえを感じた。

市町村が各市町村に働きかけをしていることも大きな影響。出雲市も行政が大きなはたらきかけをしている。まず関係者の土俵づくりをしてくれた。

フォーラムも県内様々な立場、教育長、同じ土俵にたった。こういう機会を作っていたというところで、行政側の熱い思いをしる、実施への意欲をつとめていくと感じた。課題は、幼小連携の魅力必要性を幼児教育側もしっかり持つ、小学校側もしてもらおう。そのためには1年生からの育ちの姿など、各校区の幼小の対話が必要。

(委員)

垣根の件、フォーラムパネルディスカッションを見ていた方が、あんな校長先生ならいいよねと言っていた。校長も悩んでいる、時間がない、忙しい、学力向上、特別支援。そういうことを受け止めつつ、その課題をどう解決するか提案することも行政の責任の1つ。

(委員)

管理職への研修一番大事。現場は一生懸命それぞれやっている。現場は思いがあっても上が理解していないことも聞いている。管理職がどちらも12Pの姿、困っているのはこどもたち、こういう状況を作ってしまった、幼小ともに一緒に考えていかないと、これからの学校生活苦しんでいく。管理職と一緒に考えないといけない、そこに絞って話をしていてもあってもよいし、管理職と現場共同の研修もあってよい。管理職から研修内容が現場におりていないこともある。管理職と現場が共通認識をもてば幼小連携が進むのではないか。

議題（３） 幼児教育センターの体制について

（事務局説明）

① 令和８年度 幼児教育センターの体制案と取組の重点 資料３

構成員、各事業の具体等について解説

来年度の取組の重点として

- ・「しまねの架け橋期の教育ガイド」の更なる普及・啓発
- ・各市町村体制整備の支援の充実
- ・各市町村との情報共有や連携の教科

② 幼小連携・接続アドバイザー業務の振り返りと次年度の見通し 資料４

第２フェーズ「カリキュラム開発」を中心に市町村の研修支援を行うことが多かった。来年度は第３フェーズ「実施・検証」を念頭に、幼小の先生方が「架け橋期のカリキュラム」の実施意欲を高め、実践を振り返り、子どもの姿からカリキュラムを見直していくよう市町村支援していきたい。

③ 幼児教育コーディネーター業務の振り返りと次年度の見通し 資料５

今年度、市町村へのヒアリング、集合研修や施設ごとの研修、訪問指導の動向支援などを行った。保育者の心に響く研修の在り方を工夫するとともに、各市町村のアドバイザーとの連携を深めていきたい。

④ 島根県幼児教育センター主催研修の次年度の見通し 資料６

令和７年度まで開催していた「幼児教育推進研修」は、次年度は「幼小連携・接続研修」として開催する。管理職研修・中堅研修は、「生命の安全教育」をテーマに実施する。アドバイザー合同研修も工夫して充実させたい。

議題（４） 幼児教育推進会議委員より意見

- ・国、県、いろいろなところで保育者の質の向上が言われている。公立園はいかに魅力ある園であるのかを広く知ってもらうために、研修で知識つけることは大切である。
- ・研修が重なり、何をどのように選ぶか難しいと思っている。県、市町村の研修がたくさんあり、どの研修に参加するのか迷うこともある。研修内容の調整をしていただくとありがたい。合同でできるところはまとめて行うよう示していただくとありがたい
- ・基準書云々の部分は、とりだして座学的に学ぶことも必要ではあるが身になりにくいと思う。やっていることを価値づけ、保育との関連性を位置付けられるようにしていただくとありがたい。

議題（５） その他

（事務局説明）

令和８年度の主な予定について 資料７

４ 閉会

- ・挨拶（副座長）